

もうすぐ夏休みになりますね。いのちのたび博物館では、夏の特別展「ゾクゾク発見！両生類・は虫類展」を7月13日より開催します。スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております。

## 夏の特別展「ゾクゾク発見！両生類・は虫類展」

【開催期間】令和6年7月13日(土)～9月16日(月・祝)

「きもちわるいもの」「こわいもの」と思われがちな両生類・は虫類について、液浸・剥製標本や生体の展示を通してその魅力をご紹介します。世界最大級(全長約1.5m)のオオサンショウウオの標本や、近年ぞくぞくと見つかった新種など、普段は見ることのできない展示が盛りだくさんです!!

ヘビなどの生体に触って学べるイベントを開催します。詳しくはホームページを見てくださいね!!



恐竜のいた時代から姿の変わらないワニ。生体や触れる標本を展示します。



りょうきん 料金	とくべつてん 特別展のみ		じょうせつてん 常設展のみ		けんじょうせつてん セット券(常設展+特別展)	
	いっばん 一般	だんたい 団体	いっばん 一般	だんたい 団体	いっばん 一般	だんたい 団体
おとな 大人	900円	720円	600円	480円	1300円	1100円
こうれいしゃ 高齢者(※)	900円	720円	180円	180円	1000円	900円
こう 高・大生	600円	480円	360円	280円	900円	700円
しょう 小・中生	500円	400円	240円	190円	700円	500円

※団体は30名以上のお一人様料金です。※高齢者は北九州市・福岡市・熊本市・下関市在住の65歳以上の方



特別展ホームページはこちら

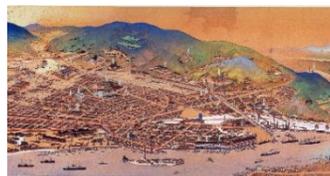
### 企画展「戸畑百年の軌跡」

会期 令和6年6月22日(土)～9月16日(月・祝)

※ 常設展入場券で観覧できます

戸畑は洞海湾の港の整備等に伴って様々な企業や工場が立地し、「工業のまち」「水産のまち」として発展しました。また明治末に私立明治専門学校(現在の九州工業大学)が開校、昭和49年には市立美術館が開館するなど「文教のまち」でもあります。

吉田初三郎  
戸畑市鳥瞰図  
(1933)部分



# ミュージアムのタネ



つき たいよう ちきゅう すてき かんけい  
 月と太陽、そして地球の素敵な関係

月と太陽は、地球から肉眼で丸く見える数少ない天体です(太陽を見るときは必ず日食グラスを使いましょう)。月は地球のまわりを約27日で一週し、地球は太陽のまわりを約365日で一週しています。太陽は自分で光っていますが、月や地球は光を出さず太陽に照らされて光っています。このような月と太陽と地球の関係や特徴は、わたしたちに美しく神秘的な現象を見せてくれます。

### 【月の満ち欠け】

月は、地球を一周する間に新月→半月(上弦=右半分)→満月→半月(下弦=左半分)→新月のように満ち欠けします。これは月の太陽に照らされている側だけが見えるためです。ほかにも三日月や十六夜など、月の満ち欠けを表す言葉がたくさんあります。むかしは月の満ち欠けをカレンダーとして利用していました。日々変化する月の様子で日数を数えるなんて素敵だと思いませんか?なお、新月から次の新月までは、月が地球を一周する日数より少し長い約29.5日かかります。なぜだかわかりますか?

### 【皆既月食】



2022年11月8日の皆既月食

満ち欠けとは別に月が急に暗くなることがあります。数時間の間に満月が徐々に欠けて、全体が暗くなり、再び満ちて満月に戻ります。これを皆既月食と言います。皆既月食は、月、地球、太陽がこの順序に一直線に並んだとき、地球の影が月をおおうことで起こります。月は真っ暗にはならず、赤く神秘的な色になります。月食を見るのに特別な道具はいらないので、チャンスがあれば観察してみてください。日本で次に見られる皆既月食は2025年9月8日です。

### 【金環日食・皆既日食】

太陽、月、地球がこの順序に一直線に並ぶと、地球からは太陽が月に隠されます。これを日食と言います。月食と並ぶ順序が違うことに気づきましたか?月と地球の距離がやや遠いと太陽の中心だけが隠される金環日食、やや近いと太陽の全体が隠される皆既日食になります。どちらも起きる時間や場所がかなり限られますが、一生に一度は見たい美しい現象です。日本で次に見られる金環日食は2030年6月1日(北海道)、皆既日食は2035年9月2日(北陸～北関東)です。



2012年5月21日の金環日食

自然史課学芸員 森 康